

(仮称)新・松寿荘 / 新・永寿園 福祉複合センター建設運営法人選定委員会 議事概要

1 選定委員会の開催状況

(1) 日時

平成23年(2011年)5月16日(月)午後1時30分～午後3時10分

(2) 場所

箕面市立総合保健福祉センター2階大会議室

(3) 出席者

明石 隆行氏(大学教授(社会福祉学))
遠藤 剛生氏(大学特別教授(建築))
世羅 徹氏(公認会計士)
井上 隆志氏(地域福祉専門機関代表)
岡室 喜人氏(松寿荘利用者協議会会長)
中尾 直子氏(箕面市老人クラブ連合会女性部長)
浅井 晃夫(総務部長・副委員長)
小野 啓輔(健康福祉部長・委員長)
藤迫 稔(こども部長)

2 議事概要

(1) 審査対象

(仮称)新・松寿荘 / 新・永寿園福祉複合センターの建設運営法人及び箕面市立多世代交流センターの指定管理者の候補者の選定

(2) 応募者

社会福祉法人ひじり福祉会

(3) プレゼンテーション

応募者から次のとおりプレゼンテーション(提案内容の説明)が行われた。

応募の理由

・平成10年から箕面市内で施設を運営しており、さらなる地域貢献を目指したい。

事業の運営方針の提案

- ・松寿荘機能を維持しつつ、新しい教室、広場でのイベントなどを実施し、子育て支援のノウハウを生かして高齢者と子どもの多世代交流を推進する。
- ・特別提案として、養護老人ホームに小規模特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービス、ヘルパーステーションを併設して一体的な支援を行う。
- ・設計プランとして、緑地の配置等による周辺環境への配慮、オレンジゆずるバス停留所へのスムーズな連結、多世代交流センター部分と養護老人ホーム部分の機能の

明確化を行う。

- ・サービスのコンセプトとして、7つのポイント（安心、安全、快適、優しさ、エコ、美しさ、楽しさ）で運営していく。

収支計画に関する提案

- ・民間養護老人ホームのイニシャルコストに係る借入金相当分（約 160,000 千円）に対して市からの支援をいただくことで、市が経常的に負担する多世代交流センターに係るランニングコストを 10 年間で約 170,000 千円抑制し、法人として安定的な運営の確保を図るとともに、市の財政への貢献を図りたい。

（４）ヒアリング

（質問）

職員確保策について。

困窮された市民の相談や援助について。

（回答）

職員は正職採用に努め、福利厚生や子育てしながら働きやすい職場づくりに力を入れている。

本体施設（特別養護老人ホーム）において、大阪府社会福祉協議会の社会貢献事業を実施し、ソーシャルワーカーを配置している。

（質問）

小規模特別養護老人ホームの入所率について。

緊急ショートステイのベッド数の確保について。

障害者支援について。

（回答）

本体施設の入所率が 98% 超えており、看護師や常勤医師などの手厚い配置など、入所者に選んでもらえる要因があると考えている。

サテライト型のメリットとして、本体施設のショートステイと合わせて計 25 床で受け入れが可能と考えている。

本体施設のデイサービスやショートステイを障害者の方に利用いただいた実績がある。

（質問）

多世代交流センター部分は、開放感や自然の活用、素材や色の組み合わせなどもっと期待できる。市の条件を満たしつつ、工夫の仕方はあると思うので、基本計画の見直しも検討して欲しい。

（回答）

市や利用者にヒアリングを行い、利用者のニーズに応じてより良いものになるように柔軟に対応していきたい。

（質問）

多世代交流センターについて、卓球台を 3 台置けるか、バンパーが 4 台入るか、館内は現在の松寿荘のように利用は許可制となるのかなど、今後検討して欲しい。

2 階のデッキ部分の使い方について。

(回答)

市や利用者と連携して運営の方法を検討していきたい。

2 階のデッキ部分は両施設を行き来するイメージではなく、デッキ交流広場のイベントを見るなどのイメージである。

(質問)

法人自己資金について。

小規模特別養護老人ホームの収支見込みについて。

(回答)

新たな融資等で調達が必要と考えており、この点からも収支計画の提案を行ったものである。

併設施設（デイサービス、ヘルパーステーション、診療所など）の収益で補填可能と考えている。本体施設についても順調である。

(5) 各委員の主な意見等

特別提案で高齢者と障害者に対するサービスや緊急ショートステイの受け入れなど、市の施策への貢献がみられ、福祉サービスの向上につながると思われる。

小規模特別養護老人ホームについては、本体施設（特別養護老人ホーム）のバックアップが期待される。養護老人ホームについては、A D L（日常生活動作）が低下して特別養護老人ホームなどへ移らなければならないときに、同じ敷地内や本体施設で受け入れが可能なので、入所者も安心できると思う。

設計については、養護老人ホーム部分は本体施設の経験を生かし、一つの固まりとして良い感じで整理できている。多世代交流センター部分は、市の要求水準は揃っているが、新しい市立施設としてよりふさわしいしつらえについて今後議論し、より磨き上げて欲しい。

交流広場の利用形態や、おひさまひろばと車路の動線の関係、館内で高齢者と子どもと一緒に過ごすことなども考えなければならない。

今後の運営について、厳しい計画である。赤字削減のために人件費に影響を及ぼすのではないかと懸念される。市も、その辺りを考慮して、財政的な負担を考えても良いのではないかと懸念される。市も、その辺りを考慮して、財政的な負担を考えても良いのではないかと懸念される。法人としては本計画に対し非常に真摯な対応をしているし、法人母体がしっかりしているので、何年後かに危険な状況とは思えないが、市の方でその辺りをフォローしても良いのではないかと懸念される。

特に、収支計画の提案については、一時金（借り入れ分）を市がフォローしてくれれば、毎年の経常的な市負担を 10 年間下げるというもので、市としても一時金が増額するが、経常経費を減額でき、大きな財政課題である経常収支比率の抑制につながる提案である。

この委員会での議論を踏まえて、運営が適切かどうか、今後も市の方で評価をしっかりとっていただきたい。

実績と運営のノウハウがある。人員体制についても努力され、地域連携・施設連携についても具体的に提案されている。社会貢献事業についても本体施設で行っており、新しい施設でも取り組まれるとのことで、実績を踏まえると、十分やっていけると思

われる。

現在の本体施設は松寿荘にも近く、実績もあり、提案内容は満足である。

3 選定評価結果

(1) 採点結果

A (提案金額に関する評価)	4 7 9 . 7 点
B (法人そのものの移管する評価)	7 8 5 点
C (提案内容に関する評価)	7 7 4 点
合 計	2 0 3 8 . 7 点 / 2 , 7 0 0 点満点

(2) 選定結果

各委員の採点結果について、基準点 (1 , 5 3 0 点を設定) を超えており、応募者が (仮称) 新・松寿荘 / 新・永寿園 福祉複合センターの建設運営法人及び箕面市立多世代交流センターの指定管理者の候補者として適切であると判断する。
